

平和公園ツアーのしおり

<見学にあたっての視点>

○一人一人のヒバクシャの生きざまに思いを重ねる

死の恐怖、多くの友人・家族と死別していることや原爆症差別を生き抜いていること
ヒバクシャもひとくくりにできるものではなく、様々な職業・身分の違いがあった

○原爆をどう総括するか、様々な立場に触れながら、自分の考えをつくっていく

例えば、アメリカ政府は、原爆投下は戦争を終わらせる「正義の行い」だったとしている
原爆をなくす、という立場であっても、その筋道は様々提起されている

—平和資料館の提起する核廃絶の筋道も、あくまで一つの立場

何度も展示の内容は変わっている（近年大幅リニューアル・蠟人形がなくなるなど）

○広島大学と平和公園との関わり

一番有名な慰霊碑の碑文も広大教授が書いたもの。案外残念な関わりの話もある

○現在に照らし返してどう考えるか、現在の問題としてとらえ返す

「核の悲劇を二度と繰り返さない」…しかしどうやって…？

<基本的な行程>

- ①平和公園巡り（紹介しながら案内）
- ②昼食・お好み焼き
- ③資料館見学（1時間半程度自由見学）
- ④簡単な総括

<今回中心的にまわる場所（めぐる順番。番号は地図と対応）>

- | | |
|---------------------|----------------|
| 43 被爆したアオギリ | 45 峠三吉詩碑 |
| 55 国立広島原爆死没者追悼平和祈念館 | 52 祈りの像 |
| 48 原爆死没者慰霊碑 | 11 原爆の子の像 |
| 57 郵便局員殉職碑 | 8 動員学徒慰霊塔 |
| 6 原爆ドーム | 7 原民喜詩碑 |
| 15 原爆供養塔 | 18 韓国人原爆犠牲者慰霊碑 |

<各場所の紹介>

43 被爆したアオギリ

爆心地から約1.3kmで被爆（現在は移植されて平和公園に）。熱線と爆風をともに受けて枝葉はすべてなくなり、幹は爆心側の半分が焼けた。翌年の春になって芽吹き、人々を勇気づけた。

45 峠三吉詩碑

峠三吉は28歳の時、爆心地から3km離れた自宅で被爆。戦後、青年運動・文化運動を通じ次第に平和運動の先頭に立つようになり、原爆反対、平和擁護の作品を数多く発表。1953年3月10日に36歳で死去。

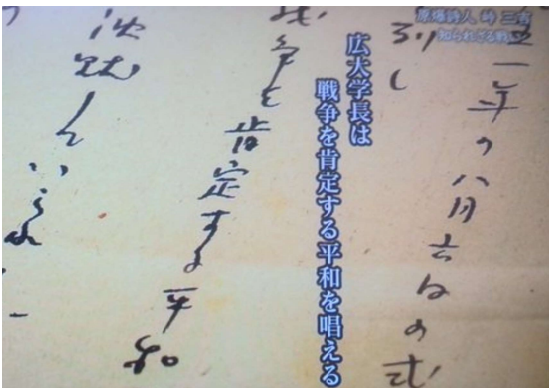
碑に刻まれた詩は、朝鮮戦争が始まり、占領軍による原爆反対運動への弾圧が激しさを増す中、トルーマン大統領の「朝鮮戦争に原爆使用もありうる」という声明に触発され、まとめられた『原爆詩集』の「序」として書かれたもの。『原爆詩集』は米軍による厳しいプレスコード(1952年まで)をかいくぐって1951年に自費出版され、原爆への怒りがぶちまけられた。ヒバクシャの存在がプレスコードによって押し隠されるなかでの必死の格闘だった。

生前発表されなかった「すべての声は訴える」は、朝鮮戦争に向かう情勢を見て、峠のこれまでのスタイルであった叙情詩から、叙事詩にスタイルを転換して書かれていた。

「…再軍備は原爆投下の意味の延長であり

その中ではすでに戦争を否定（ひてい）する平和の声は弾圧（だんあつ）される
（一九五〇年の官制的なものも平和祭の全面的禁止！）

そして一九五一年の八月六日の式典には朝鮮戦線からのパイロットが参列し
広大学長は戦争を肯定（こうてい）する平和をとる…」



※2015年のNHKローカル番組・フェイス「峠三吉 よみがえる広島のかき」より

ここで言われている広大学長とは、初代森戸辰男学長のことであり、彼は「現実的平和主義」として「武器をもって平和を維持する」考えを表明していた。現在の広大も、実は日本最大の軍事メーカー三菱重工が経営協議会に参画、原爆開発を担ったロスアラモス研究所と提携しているなど、この思想は「平和を希求する精神」が掲げられながらも息づいている。

森戸辰男は戦前はアナーキズム(無政府主義)研究をおこなって弾圧されていたが、戦後は転向。教育界などからアナーキズム的傾向を排するために論文を執筆するなどしていた。社会党右派の文部大臣となり、強い要請があつて大臣を辞して広大初代学長になった。

55 国立広島原爆死没者追悼平和祈念館

原爆死没者の氏名・遺影を収集している国立の施設。原爆投下時刻の8時15分を表すモニュメントがある。地下には情報展示コーナーがあり、そこに朝鮮戦争下1950年に8月6日を前にして、警察が集会禁止を呼び掛けたビラが展示されている（はず）。

52 祈りの像

1960年8月15日、平和祈念慰霊国民大祭実行委員会により建てられた。慰霊対象は被爆者、軍人、軍属、官公吏、警察官、警防団員、動員教師、動員学徒、派遣看護婦、助産婦、抑留同胞死没者、戦犯処刑者、殉死者、自決者、在外同胞非業死没者、その他一般犠牲者となっており、戦争に積極的に関わった立場の人間も位置づけている点で、他の碑と大きく性格が異なる。

そばに刻まれた詩は「大地讃頌」で有名な大木惇夫の詩。彼は愛国詩を戦中に数多く書き、戦後は戦争協力者として文壇から疎外された。

48 原爆死没者慰霊碑

碑文の「安らかに眠ってください 過ちは繰り返しませぬから」は広島大学文学部の雑賀忠義教授が書いたもの。

「誰が」反省する内容なのかでみにくい言い争いが続いていた。

以下、これに対する浜井市長のコメント。

「特に誰の過ちと指摘せず、すべての人が人類の一員として、その責任の一端を担う表現の中に、私は寛容と反省と謙虚に通じる固い決意を見出す。これを偏狭に、広島市民や日本人だけの過ちと解釈する必要はないと思う。また、過ちは繰り返しませぬから という言葉の中に、自らも繰返さないが、ほかの人々にも繰返させないように努力する意味も含まれていなければならない」

かつてはこの碑文前あたりで原爆実験があるたびに森滝市郎文学部教授が座り込みするなど、抗議行動の中心地でもあった。森滝市郎教授は原水禁運動の中心に立ち、「核エネルギーと人類は共存できない」と訴えた人物。



11 原爆の子の像

佐々木禎子さんはじめ、原爆で亡くなったすべての子どもたちを慰霊するために建てられた。

禎子さんは2歳で被爆しながらも元気に成長していたが、10年後の小6になって突然白血病となり、8カ月の闘病生活後に亡くなった。彼女の死に衝撃を受けた同級生たちが全国へ呼びかけ、子どもたちによる募金活動が始まり、全国3,100校余りの生徒と、イギリスなどの国外からの支援により像が完成した。

貞子さんは闘病中、「鶴を千羽折ると病気が治る」と信じ、葉の包み紙や包装紙などで1,300羽以上の鶴を折り続け、折り鶴はヒロシマの象徴として位置づけられている。

57 郵便局員殉職碑

郵便局員といっても、当時は多数の男性職員が軍隊にとられており、原爆の犠牲となった人の多くは、人手不足を補うために採用された女性や学徒動員の女学生、国民学校高等科の生徒たちだった。爆心直下だったため、建物も一瞬で押しつぶされていたという。

8 動員学徒慰霊塔

労働力の不足を補うため、1944（昭和19）年8月に学徒勤労令が政府によって発せられ、中学生以上の生徒は軍需工場等で勤労奉仕することが強制されていた。広島市内では被爆当日、市内で建物疎開作業（空襲による延焼を防ぐため、民家などの建物を取り壊す作業）を行っていた国民学校高等科以上の8,000人以上の生徒のうち、約6,300人が犠牲に。その他に市内の各事業所に出ていた多くの学徒も犠牲者となった。

広島・長崎には三菱重工を中心とする巨大な軍事工場があり、強制連行された朝鮮人なども学徒とともに兵器をつくらされていた。

6 原爆ドーム

もともとは広島県産業奨励館として県下の物産品の展示・販売が行われていた。原爆ドームの呼び名は、米軍の占領が明けた頃から広まった。

ドームの保存については、「原爆による惨禍の証人として保存する」という意見と、「危険物であり、被爆の惨事を思い出したくないので取り壊す」という意見が対立。最終的には1966年に永久保存が決定された。

※ヒロシマ平和メディアセンター 1951/8/6 の記事より

座談会「平和祭を語る」（中国新聞紙上）で広島平和協会長の浜井広島市長、森戸辰男広島大学長が「原爆ドーム保存は不必要」と語る。浜井市長「問題となっているドームにしても金をかけさせてまで残すべきではないと思っている」、森戸学長「過去を顧みないでいい平和の殿堂を造るほうにより意義があります。いつまでも残しておいてはいい気分じゃない」

7 原民喜詩碑

詩人原民喜は、40歳の時に幟町の生家で被爆。前年、最愛の妻と死別していた彼は、孤独と絶望に打ちひしがれながらも、生き残った者の使命として被爆の惨状を伝える作品を書き続けた。しかし、朝鮮戦争が拡大、トルーマン大統領の「原爆の使用もありうる」との声明などに失望。1951（昭和26）年3月13日、東京中央線の線路に身を横たえ、45歳で自ら命を絶った。

15 原爆供養塔

一家全滅で身内の見つからない遺骨や氏名の判明しない遺骨が納められている。1946年市民からの寄付により、仮供養塔、仮納骨堂・礼拝堂が建立され、その後10年経った1955年広島市が中心となり、老朽化した遺骨堂を改築し、各所に散在していた引き取り手のない遺骨もここに集め納めた。

18 韓国人原爆犠牲者慰霊碑

1970年になって建てられた、韓国人の原爆犠牲者を弔う碑。かつては平和公園の外にあったが日本人原爆犠牲者と合わせて慰霊されるべきだと移転された。被爆者を国内で認定するだけでなく、国籍関係なく戦争犠牲者として医療などを受けられるべきだと、被爆者運動が国際的になっていったこととあわせての移転。敗戦時には日本には約300万人の朝鮮人がいたといわれており、当時広島市内には、2万人以上の朝鮮人がいて被爆したといわれている。

参考資料

●本『観光コースでない広島：被害と加害の歴史の現場を歩く』

●本『複数の「ヒロシマ」 記憶の戦後史とメディアの力学』

●本『原爆詩集』

●ウェブ ヒロシマ平和メディアセンターの各記事

<http://www.hiroshimapeacemedia.jp/?lang=ja>

●ウェブ『平和記念公園・周辺ガイド』

http://www.pcf.city.hiroshima.jp/virtual/VirtualMuseum_j/tour/tour_mai.html#

●ウェブ(論文)『戦後広島市の「復興」と被爆者の視点 『中国新聞』の記事を史料としてー』

http://repo.lib.hosei.ac.jp/bitstream/10114/3616/1/ibunka7_kiriya.pdf

ほか